

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670104480
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホーム唐湊の家
訪問調査日	平成 19 年 9 月 4 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 3 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 9月10 日

【評価実施概要】

事業所番号	4670104480		
法人名	有限会社 友星メディカル		
事業所名	グループホーム 唐湊の家		
所在地	〒890-0081 鹿児島県鹿児島市唐湊三丁目2番4号 (電話) 099 - 254 - 6066		
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成19年9月4日	確定日	平成19年12月3日

【情報提供票より】(平成19年 7月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 8 月 3 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	9 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 7.5

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての 1階 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり		1100 円

(4) 利用者の概要(7月31日現在)

利用者人数	17名	男性	4名	女性	13名
要介護1	9名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.8歳	最低	71歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今村病院分院 田上記念病院 西歯科医院 財団法人慈愛会 愛と結
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大学や幼稚園を有する閑静な住宅地に建てられたグループホームである。ホーム内は明るく広々としている。利用者は近くのストアに買い物に行ったり、大学のグラウンド、川沿いの散歩を楽しんでいる。新年会やリサイクル活動等で婦人会・学生ボランティア・子供達との交流も図られている。ケアで特に目を引くのが入居者の思いや意向を「したい事・して欲しい事」ノートに書きとめ希望がかなうように支援がなされている事である。その結果も記録してある。利用者職員は穏やかな雰囲気落ち着いた生活が営まれている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	入居後に把握できた生活歴や過去の大事な出来事の記録・整理が不十分という事であったが全職員が各々把握できた事をもれなく書き加えていた。又、多くの入居者がお金を持つ事の支援については家族と相談しながら、お金を持って頂いている。市町村へは必要に応じて報告・相談に行っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。改善項目は出来るところから改善に取り組んでいる。又、昨年度の外部評価の結果を踏まえ改善がなされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	外部評価の報告、事業所の活動報告が主である。グループホームが地域に向けて、出来る事はないか質問している。昨年度の外部評価後気づいた事を改善に向けて全職員で取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見を取り入れ運営に反映されている。例えば、食欲が落ちてきた入居者があった時、グループホームの入居者、職員全員でくるくる寿司に食事に行ったり、知覧特攻平和会館まで遠出に行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	散歩や買い物時近隣の方々と挨拶を交わしたり、継続的に近所に住む学生ボランティアと交流がはかられている。又、子供会の子供達とのふれあいもある。地域のリサイクル活動や夏祭り、おはら祭り等の行事にも入居者と一緒に参加している。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初社長も含め職員全員で考え作成されている。地域密着型サービスとして理念の見直しのため職員からアンケートを取っているが理念として掲げるまでには至っていない。		これまでの理念に加え、住み慣れた地域での安心した暮らし、地域生活の継続を支えるための支援を理念の中に取り入れて欲しい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時、職員全員で「理念」を唱和し、ミーティング時「理念」についても話し合いがなされ管理者と職員は共有がなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	新年会等は公民館を利用し、婦人会の方々や学生ボランティアにも参加して頂いている。又、地域のリサイクル活動や夏祭り、おはら祭り等の行事参加も入居者と共に行っている。又、子供たちとのふれあいの機会もある。自治会への加入は会費の負担面で保留、検討中である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。改善項目は出来るところから改善に取り組んでいる。又、昨年度の外部評価の結果を踏まえ改善がなされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、事業所の活動報告をすると共に互いに意見・要望・情報交換等話し合っている。外部評価報告も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年に1~2回相談員の受入れをしている。又、事故報告や生活保護課に相談に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時、声をかけ近況を報告している。定期的に「かわら版」を発行し、面会の少ない家族へは定期的に電話で近況を報告し、意見を聴いている。金銭に関しては随時家族に報告がなされサインをいただいている。職員の異動があった場合、来訪時や行事の時紹介している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には来訪時や近況報告時に常に問いかけ意見を引き出す雰囲気作りに努めている。又、意見箱の設置や苦情相談窓口も掲示している。家族の意見、希望を取り入れ回転すしや特攻基地の見物に行ったりしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が入る場合や、異動がある場合はきちんと利用者へ紹介し挨拶をしている。また、家族にも面会時や行事の時に挨拶・紹介している。新しい職員が入ってきた時は入居者一人ひとりに顔を覚えていただくためにそばにいらしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修は2日間設けている。研修計画はないが実際には勉強会、実技を含む緊急時の手当て等の研修会を実施している。又、他の職員にも共有できるようにミーティング、勉強会で報告している。		研修は実施されているが、研修計画書が見当たらないので新人研修計画・年間研修計画を立て管理者や職員を段階に応じて人材育成をはかっていかれる事を望みます。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者が集まる管理者会議に参加し、交流・意見交換を行っている。又、職員も入居者と共に他のグループホームとの相互訪問を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初、職員が会いに行っている。家族はもちろん、本人にも出来る限り見学に来ていただきお茶を飲んでいただいたりして納得した上での入居を心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	行事計画や献立作成等一緒に考えるように努めている。又、昔ながらのもの、そばうち・調理方法・ならわし等利用者の方に教えていただきながら、共に作業を行っている。お祭りの看板づくりやホーム内のかざりつけ作り等一緒に作業をしている。職員がマスクをしている時など利用者からいたわってもらう場面もある。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いを把握するために「したい事、して欲しい事」ノートを作成し、入居者の希望を記録し取り入れて願いがかなうように支援している。その結果も記録している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の担当者は決めている。家族の要望を聴き各階ミーティングで職員全員で話し合い介護計画の作成をしている。家族のこまかな希望「にんにく黒酢を飲ませて下さい」など日々の生活で支援している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回ケアプラン評価票のモニタリングを行い、本人や家族の要望・意見を聴いている。又、骨折など状態の変化や要望の変化があれば、その都度見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院された時お見舞いに行ったり、通院時支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっており、状況に応じて、受診や送迎の支援も行っている。又、協力医療機関については職員が受診の支援をする事が多くその時はその都度結果を家族に報告している。又、整形外科や歯科の往診もある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだ、重度化の事例がない。重度化した場合どうするか、家族とかかりつけ医、グループホームの職員で話し合いがなされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティング時プライバシーの確保にむけて職員の意識向上を図っている。職員だけでなくボランティア受入れ時も同意書をとっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が自分らしいペースで暮らせるよう買い物や散歩等、個々の状態や思いを配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は一緒に考え、下ごしらえは出来る限り一緒にしていただき、職員も一緒にテーブルで会話を楽しみながら食事をしている。又、食べこぼし等のサポートもさりげなく行っている。お米とぎや茶碗あらいなど入居者の力量に応じて職員と一緒にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午前、午後いつでも入浴できる。また、ゆず風呂等も取り入れ楽しんで頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	会話から得られた「したい事、して欲しい事」ノートを作成して楽しみ事、気晴らしの支援をしている。家事と一緒にしながら入居者の得意な事を見出し、掃除・食器洗い・洗濯ものたたみなど自由に出来るように支援している。職員も一緒に楽しみながらしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのストアへの買い物、大学のグラウンド・川沿いの散歩等職員が付き添って支援がなされている。納涼船の花火見物など特別な外出を月に1回計画し実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室には鍵はかかっていない。鍵はかけない自由な暮らしを職員全員で認識しており、外出しそうな時は一緒について行く、後方から見守る等の工夫をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の方も参加して頂いて日勤、夜勤の時間帯を想定して実際に訓練をしている。また、訓練時は隣のタクシー会社にも協力の声かけをしている。学生寮にも災害時協力してもらえるように声かけをしてある。非常用の食料、飲料水の準備はしてある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎日記録しており、状況に応じて正確な食事内容や水分摂取量・排尿量のチェックも行っている。又、職員全員が個々の嗜好を把握しており、献立の工夫を行っている。体重測定は月に2回実施し、BMIのチェックを年に4回実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2ヶ月に1回位入居者と一緒に貼り絵や飾り付けを作り、飾り付けている。又、対面式キッチンとなっているため、台所からの匂い、食器を洗う音などが家庭的である。ゆず湯、柏餅・桜餅・鍋料理等により、季節感を味わえる工夫をしている。不快な音はない。日差しはレースのカーテンで調整している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っていたタンスや家族との写真・カレンダー・位牌等馴染みの物を居室に置いてある。		